

たか よし 高吉 B 遺跡

- 1 所在地 志布志市志布志町安楽
- 2 起回事業 主要地方道志布志福山線（有明志布志道路）
道路改築事業
- 3 調査年度 平成22年度～24年度
- 4 主な時代 旧石器時代, 縄文時代早期, 弥生時代中期
- 5 遺跡の概要

高吉B遺跡は、標高約80mの台地の縁辺部に位置し、遺跡の西側には安楽川が流れています。主要地方道（高規格道路）の改築事業に伴い、平成22年12月から平成24年9月まで発掘調査が行われました。弥生時代中期の^{たてあなじゅうきよあと}竪穴住居跡や、縄文時代早期の土器を伴った^{れんけつどころ}連穴土坑など、数多くの貴重な発見がありました。

6 注目される成果

(1) 弥生時代中期の竪穴住居跡

弥生時代中期後葉（2,100年前）の竪穴住居跡が7軒発見されました。平面の形が花びらのように張り出していることから「^{かべん}花弁型住居」といわれています。住居跡の大きさ（直径）は約5m～7mで、柱の跡も確認できました。住居跡の中からは、地元で作られた土器とともに、^{せとうち}瀬戸内地方や北部九州地方の特徴をもつ土器も発見されました。これらの遺構や遺物は、当時の集落の様子や他地域との交流について考える上で大変貴重なものです。

(2) ^{よこあな}横穴を土器でふさいだ^{どころ}土坑

弥生時代の竪穴住居跡の近くで、片側の壁に土器が集中して埋めてある土坑が見つかりました。土器を取り上げてみると、横に穴をあけて土器でふさいでいた様子が分かりました。志布志市松山町の^{きょうのみね}京ノ峯遺跡でも、横穴を石および木でふさいだと思われる土坑が発見されています。このような土坑は、発見例が少なく、どのような目的で、どのように使われていたのか興味はつきません。



横穴を土器でふさいだ土坑

(3) 土器を伴った連穴土坑

縄文時代早期の遺構として、^{くんせい}燻製をつくる施設と考えられている連穴土坑が4基発見されました。そのうちの1つは、ちょうど火を焚いたと思われる場所に、土器がほぼ完全な形で発見されました。発見された土器には^{あやすぎもん}綾杉状の文様が施されており、およそ8,500年前の石坂式土器の系統とされます。連穴土坑の中から土器が発見された例は少なく、連穴土坑の使われ方や、使われていた時期について知る手がかりとなる貴重な資料です。



竪穴式住居